久木小学校区住民自治協議会・広報誌

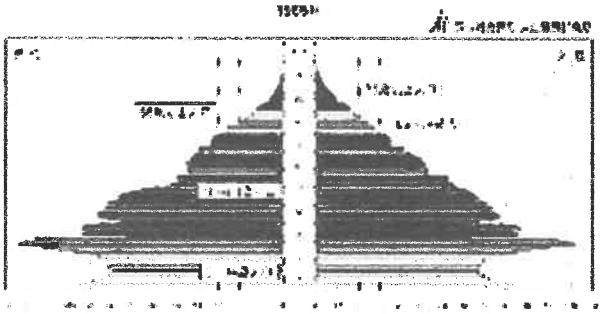
住民協 ひろば

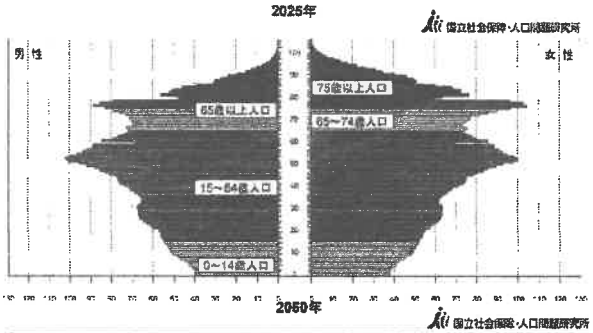
第７６号　（準備会から通算第９７号）
発行日　　令和５年８月５日
発行所　　逗子市久木２－１－１
久木小学校区住民自治協議会
発行人　　山崎　徳次郎

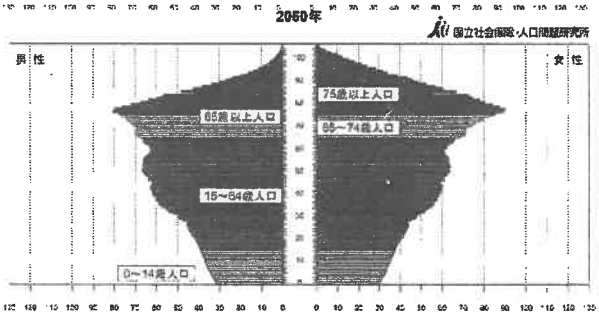
・・・人生百年時代の人口構成

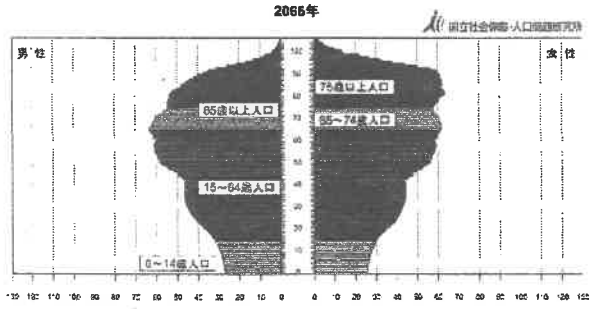
高齢者の時代へ・・・

高齢化が進んで人生百年といわれる時代に入りつつあります。同時に進行しているのは少子化、年々出生する人口が減少、その結果は少子高齢化社会、その過程を国立社会保障・人口問題研究所の発表している人口構成図で見てみましょう。
上から1965（昭和40年）、2025（令和７年）、2050（令和32年）、2065年（令和47年）の人口構成。縦軸は年齢、横軸は人口数。色分けは上（濃）から75歳以上、（淡）74～65歳、（濃）64～15歳、（淡）14歳以下を示します。
右側が女性、左側が男性です。
４個の図を見比べるとそれぞれ特徴があります。
1965年：高度成長期入り口では、15歳前後を底辺にした綺麗なピラミッド型、その頂点に65歳以上の人口が小さく乗っている図柄です。
2025年：現在と考えると、75歳と50歳前後の二つのピークがあること、ピークの中間に位置する65歳以上の人口が屋根のようにのしかかっていること、５０歳前後をピークに急激に人口が減少し始めていること、75歳前後の女性が最も多いこと。
2050年：カーボンニュートラル達成の年は、75歳前後をピークに扇子型、大きな帽子（75歳以上）を被ったやせ型。足元の14歳以下が、細くなりました。
2065年：2025年に比べて随分小振りになっています。その中で75歳から90歳までの女性が同年代の男性に比べて多いのが目立ちます。この年の推定人口は9160万人です。









2025年人口からわかるように75歳人口が大きな比重を占めています。この年齢層の健康な人達が、いかに地域を支える層になるかで地域の活力は左右されるでしょう。このことは人口構成の推移をみれば明らかであり、やがては85歳ぐらいまでの元気な方々が地域を支えていくことになるでしょう。（以下２～３頁へ続く）

校区住民協　理事（会計担当）　鈴木　為之

令和５年７月度役員会

開催日時と場所：2023年7月1日（土）13時30分～15時30分、久木会館　出席者：15名（内役員12名）

議題

(1)　事務局からの報告事項

①市長の重点施策について

：６月実施の住民協連絡会での発言内容）

・防災：逗子市が久木地区に防災拠点を設置し、在宅避難者を包含する安否確認、被災状況の把握、生活必要物資等の情報確認のネットワークを含む総合的な体制を構築し、久木地区をモデルケースとして防災安全課と協働してプロジェクトを展開し、その目途が立ったところで他地域にも広げる事を決定したことが報告された。

・高齢者の移動手段：免許返納などで今後大きな問題となる、高齢者の足については、公共交通機関でいかにカバーしていくかの検討をすすめており、現在、先行して実施している地区の視察などを実施しているとの報告があった。

(2)　審議事項

①11月26日の久木中学校防災訓練に向けての実施内容検討

配布資料を基に、地区防災本部と久木地区防災情報のネットワーク及び防災体制構築を踏まえた防災訓練の内容につき議論された。主な意見は下記

・在宅避難者を対象とした情報収集ネットワーク作りが重要である。

・訓練としての優先順位は避難所開設、地区防災拠点開設、地区防災拠点と各地域間のリアルタイム情報連絡の訓練、併せて地域の情報収集訓練、最後にグーグルフォームを使った情報集積訓練である。

・リアルタイム情報連絡の内容、連絡手段につき決めておく必要があり、手段については、全市に通用する方法とする必要がある。

・減災部会と避難所準備委員会共同で議論する場が必要ではないか。(アンケート内容、お知らせポスター内容、在宅避難者の情報収集手段など)

・グーグルフォームを使った情報収集訓練は試行しておくと、その内容などが災害対策本部の活動に有効であるかどうかが判断に役立つのではないか。

・防災拠点と各団体がどの様に連携していくか、各団体の役割の明確化が必要である。

・グーグルフォームを使えない弱者に対する情報収集の手段も考えておく必要がある。

また、事務局より、住民の多くの人に防災意識の共有を図る為、再度小林氏・門脇氏を講師に迎えて勉強会を企画したいとの要請が出され、龍村氏が検討・調整することとなった。

②久木会館改築に関するワークショップについて

配布資料を参考に、ワークショップで出された要望を勘案して作成されたレイアウト図が示され、7/25まで本図面に対するパブリックコメントを募集していることが報告された。

事務局より、要望事項の全てを盛り込む事は不可能だが、どうしてこの図面案に収着させたのかの説明がなく、収納スペースの少ない点、今ある什器備品が使用出来るのかなど疑問が多く、什器備品費などの予算要求を考える必要があるとの意見が示された。新会館への移動は2025年12月予定。

③久木朝市、みんなのカフェの件

朝市は７月16日に開催することが確認された(三浦スイカは60個用意する予定。出店は12店舗)

みんなのカフェは７月、９月は第４木曜日、11月は第４金曜日に開催する予定。

④今期「住民協ひろば特別号」特集テーマについて

「住民協ひろば特別号」は８月から着手する必要があり、テーマを決める時期となっていることから意見が交わされ、「地域の紹介・歴史」、「教育(地域と学校)」また、一度特集したが、注目度の高い防災を再度取り上げるなどの案が出された。次回の役員会で決定することになった。

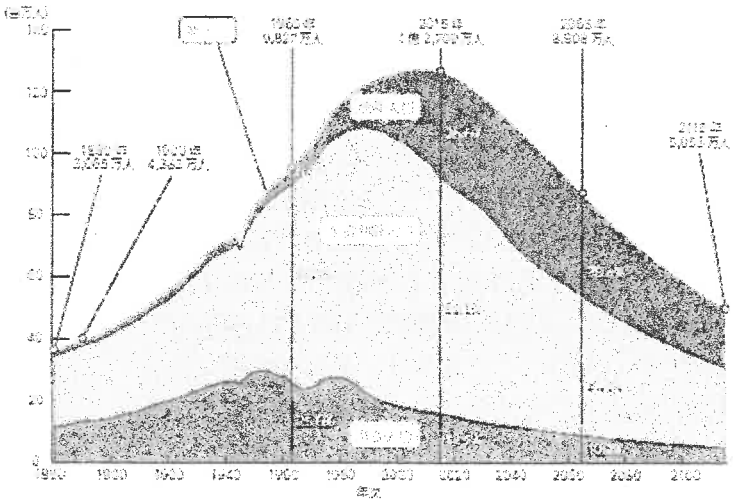
≪レポート≫　人生百年時代の人口構成（続）

１ページからの続きです。

次頁の図は、上から65歳以上、64～15歳、14歳以下の人口の変遷図（1880（明治13年）から）です。

1980（昭和55年）頃を境に老年人口（65歳以上）といわれる層が増え始めるとともに生産年

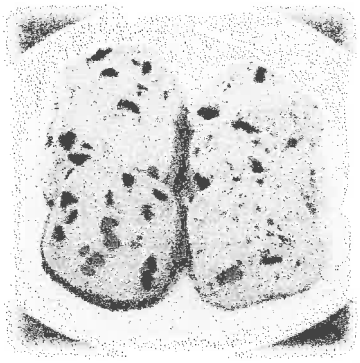
齢人口といわれる層（64～15 歳）が減少し始め、2000 年（平成 12 年）頃からは、生産年齢人口が急激に減少し始めています。
日本には定年制度があり、1965 年頃は 55 歳、現在は 60 歳（一部は 65 歳）とする企業が多くあります。公務員では令和 4 年まで 60 歳定年制、令和 5 年以降段階的に 65 歳までに引き上げるとなっています。この 60 或いは 65 歳定年が、形の上の生産年齢人口の減少を更に進めることとなっており、定年後再雇用或いは再就職という形で 70 歳乃至 75 歳まで働いているのが現実の姿、生産年齢は 64 歳以下であるとか、労働定年は 60 歳であるとかいう考えは既に大きく現実離れしており、75 歳以上の方々を含めて高齢といわれる年代層の方々が社会の重要な役割の一端を担っているのが今後の自然の姿でしょう。



≪連載≫　久木朝市ひろば　【工房オレンジミント】

宮下　知（山の根在住）

工房オレンジミントは、主に焼き菓子を作っているお菓子工房です。
保存料・人工着色料を使わず、他の添加物も出来得る限り使用しない事を理念として、お菓子作りをしています。
もともとは趣味でお菓子作りを楽しんでいましたが、本やネット上のレシピ集だけでは分からない技術的な事を学びたいとの思いで、ホームメイド協会の「ケーキコース」教室に通いました。
その後は独学で学びましたが、お菓子を皆様にお届けしたい気持ちが強くなり、お菓子工房をアパートの一室に作りました。



基本は受注生産ですが、小さいながらも売店もあります。他には、リサイクルショップ カモミール（逗子４丁目３-５）、また葉山町役場の売店でも販売しております。

「どんなお菓子でも材料があれば作ってみよう」、このような考えでお菓子作りをしていますので、ご希望のお菓子がございましたら、どんなお菓子でもぜひご相談ください。
和菓子がほしい、アレルギー対策で小麦粉を使わないもの、お菓子に違うトッピングを入れてほしい、など様々なご要望に対応しております。
今まで久木朝市に参加してきましたが、おかげさまで毎回完売となり、誠にありがとうございます。
大勢の方々と対面販売でお会いでき、ご感想を頂くこともあり、お菓子作りの励みになっております。
久木朝市だけの限定販売のお菓子もございますので、今後もご来場のほどお待ちしております。

工房　オレンジミント
宮下　知
神奈川県逗子市山の根 2 - 1 - 9 宮下アパート 202
TEL：080-6751-7506
メールアドレス：orangemint202@gmail.com
Instagram：https://www.instagram.com/orangemint202/
営業時間　土曜・日曜　PM1：00~6：00
※駐車場はございません。
お車でのご来店はご遠慮ください。

≪レポート≫　カーボンニュートラル（続）

18. GX（グリーン トランスフォーメーション）

GXという文字や言葉をよく見たり聞いたりするようになりました。政府関係の記事に多く、国はGXをカーボンニュートラルを推進する重要な戦略として意図しているようです。

(1)　GXとカーボンニュートラルの関係

カーボンニュートラル（CN）は、地球温暖化を防ぐために地球上に存在する炭酸ガスを実質的に増やさないことを指しますが、GXは地球温暖化の課題解決のみにとどまらず、その活動を成長と変革の機会としてとらえて、経済社会システム全体に変革をもたらすことを意味しています。

GXの活動は、国が主導する形で進められており、経済産業省はGXを次のように定義しています。

「2050年カーボンニュートラルや、2030年の国としての温室効果ガス排出削減目標の達成に向けた取り組みを経済の成長の機会と捉え、排出削減と産業競争力の向上の実現に向けた、**経済社会システム全体の変革**がGXです。」

具体的には、企業或いは行政がGXの推進役として、川上の原料から川下のサプライチェーン、つくられる製品や消費者までのエネルギーの変換や省エネを推進ことにより、新しい経済社会を作り上げていこうということです。

(2)　GXがなぜ注目されるか

第1には、カーボンニュートラルの実現。地球温暖化による、豪雨や山火事、干ばつなど世界中で多発している自然災害、その結果、世界的に食料や資源の不足、住環境の悪化などの悪影響の防止が挙げられます。GXへの取り組みは、世界の大きな流れになっていることです。

第2には、ESG投資の拡大が挙げられます。

ESG投資とは、E（Environment 環境）・S（Social 社会）・G（Governance 企業統治）に配慮している企業を重視し投資することで、多額のESG投資資金を得るために、企業がGXへの取り組みを重視していることです。

(3)　GXとSDGs、DX

SDGsとは、2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され，地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを謳っています。

17のゴールの中には、GXと強いかかわりを持つものが含まれています。

例えば、「No.7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「No.13 気候変動に具体的な対策を」。その他に「No.8 働きがいも経済成長も」「No.9 産業と技術革新の基盤を作ろう」「No.12 つくる責任つかう責任」。

GXはSDGs達成のための最も重要な横断的なテーマであるといえます。

DX（デジタル トランスフォーメーション）とは，「デジタル技術を企業や社会に浸透させて人々の生活をより良いものに変革すること」を意味します。

GXを推進するには、DXが不可欠といわれています。例えば家庭設置の太陽光発電やEVの余剰電力を地域の電力として活用するには、デジタル技術を駆使したスマートグリッドという新しい発想の地域電力網を作ることが必須です。GXとＤＸは密接な関係にあります。（次回は18. GX（続）(4)国の施策、他を予定。

鈴木　為之（山の根在住）

編集後記

セミの鳴き声と猛暑・・・

夏の声と云えばセミの鳴き声であろう。8月といえばアブラゼミ、ミンミンゼミ、それから最近は地球温暖化の影響で関東でもクマゼミが鳴く。ところでラジオの朝番組で放送していた事が興味を引いた。最近の夏の猛暑でセミが鳴かないという、どうやら気温が33度を超えるとセミも熱中症の様な状況になり生存が難しくなるらしいと云う。従って最近の猛暑ではセミの声も比較的気温の低い朝方に鳴いても、気温が高くなる昼間には鳴き声が聞こえないという。蚊も気温が余りにも高いと血を吸わなくなると云う。猛暑になるとセミの鳴き声が余り聞こえなくなり、蚊も減るという。今年の夏も猛暑となるのだろうか、セミの声に耳を傾けてみよう。

事務局長　石井　達郎